

## ●ソルベントクラック(溶剤亀裂)について●

塩ビ用接着剤を使う場合、接着剤の中には、有機溶剤が含まれており、取り扱いを誤ると、管内に接着剤(溶剤)蒸気が滞留し、ソルベントクラックを発生させる可能性が高くなります。

ソルベントクラックは、その発生要因が判明しているため、配管施工時に注意すれば、対策出来るものです。

### ■ ソルベントクラックの発生要因と対策

#### 【発生要因】

- ①管内に接着剤(溶剤)の蒸気が存在していること。
- ②低温であること。
- ③管・継手に無理な応力が作用していること。(生曲げ、クランプ、土圧、熱応力等)

ソルベントクラックは、①が主要因であり、②、③が重なることで発生の可能性が高くなると考えられます。

#### 【対策】

- ①接着剤は適量をできるだけ均一に塗布し、外面にはみ出した接着剤は必ず拭き取って下さい。
- ②曲げ部には既製の曲がり管や継手を使用して下さい。また、管には、支持具取り付け時に、無理な応力が掛からないようにして下さい。
- ③配管後は、管端部にキャップをしないで開放させ、通水洗浄を行うか、送風機などで送風させることで、管内の溶剤蒸気の除去を行って下さい。

### ■ 接着剤以外のソルベントクラック

塩ビ管・継手は、有機薬品に対して材質的に侵される恐れがあります。

- ・クレオソート(材木用防腐剤)
- ・殺虫剤
- ・溶剤系シーリング材
- ・可塑剤を含む材料
- ・白蟻駆除剤
- ・塗料

等には接触させないようにしてください。

水道用硬質ポリ塩化ビニル管技術資料(施工編)(塩化ビニル管・継手協会)による。